

虫の館

先日、6年生のある男子児童がカブトムシの様子について地域の虫博士(角田先生)宅を直接訪れて質問をした事案がありました。突然の訪問だったことや質問の仕方に失礼があったようで、注意を受けましたが、私は素晴らしいことだと思っています。

朝の登校時にはいつも何人かの児童がダンゴムシを手に握って来ます。そろそろ本格的な甲虫シーズンとなるので、教室にクワガタなどの虫の入った水槽を持ってくる児童が増えるのではないのでしょうか。

子ども達の多くは虫好きです。虫の飼育は様々なことを学べる大変素晴らしい体験です。教室で虫を飼うと、虫が死んだり、汚れたり、逃げ出したり、いろいろな「腹の立つこと」も起きると思いますが、どうぞ大目に見てやり、子ども達の虫好きな心をさらに伸ばしてやってください。

私の担任時代の教室は、いつも虫があふれていました。これでもかというくらい虫の水槽が置かれていました。朝教室に行くと、床でカエルが跳びはねたり、天井をカニが這っていたりして大騒動です。

ある年の子ども達は、虫嫌いが多く、教室の虫にいやな顔をしていましたが、虫好きな子が次々に持ってくる教室の虫が引き起こす様々なドラマに少しずつ心が揺り起こされ、全員が虫好きになりました。そして、なんと最後には、ヘビを飼うようにまくなりました。

私は、世の中でヘビと高い所が大の苦手です。ですから子どもがヘビを持ってきたときはぞっとしましたが、子どもの心を尊重し、しばらく飼うことにしました。ヘビの餌はカエル。子ども達の心に葛藤が起きました。しばらく餌をやることができずでしたが、最後には、カエルを与え、それを食べる瞬間を息を飲みながら見守りました。

さらに、その年は虫を使って様々な活動を仕掛けました。理科のアオムシの観察で

は、絵を描くのではなく、油粘土で作らせました。立体で表現することにより、必然的にアオムシの体のすべてを観察することになります。

秋には、図工として昆虫を紙粘土で作りました。そして、みんなの作品を合わせて秋の県展にも出品しました。



また、学級PTAとして保護者と一緒に校庭に大きな池を掘り、年間を通していろいろな水生動物も飼いました。

良城小でここまでできないかもしれませんが、せめて教室を虫の館にすることは可能かと思います。

※反対に、子ども達がせっかく虫を持ってきたのに、「虫が逃げ出した!」「水が汚れている!」「飼うのなら完璧な世話をしなさい!」と日々ヒステリックに叱り飛ばしていた担任もいました。子ども達が本当にかわいそうでした。子どもの世話はいかぬものです。すぐに飽きる子もいます。教室で死んでしまいこともしばしばです。でも、子どもとはそういうものです。子どもの興味につきあう、共に楽しむ、いや、その先頭に自ら立つ担任でありたいものです。

(裏面に、その年の学級通信を印刷しています。)



こんな感じで、模擬インタビューは続きました。この日は、時間の関係から6人が挑戦しました。その中では、伊藤さんと河村君が比較的冷静に対応し、みんなから誉められていました。いろいろな失敗をする中で、「あまりいろいろなことを聞かないで、質問は一つにした方がいいこと」を学びました。話が広がってしまうと收拾がつかなくなるからです。

月曜日に残る2人が練習します。その後いよいよ実践にうつします。誰が行うかはやる気と運。希望者の中からジャンケンで決めるつもりです。

その結果を基にしてさらに話し合いを進め、水曜日には実際に地福公民館に見学に繰り出します。公民館へは町営バスに乗っていきます。バス代が往復で280円必要ですので、集金いたします。

この学習では、「自分と地域の人々とのかかわりを深め、地域に見られる社会現象を具体的に観察する能力を育てる。さらに、地域の諸活動に進んで参加したり公共施設を大切に利用したりできるようにする。」という目標があります。見学先を篠生ではなく、地福公民館としたのは、来年以降のことを考えてのことです。ここで得たことをもっともっと広げていくつもりです。水曜日が楽しみです。

虫の館

3、4年教室に虫が増えてきました。今教室では、アリ、カニ、オタマジャクシ、メダカ、ヤゴ、エビが飼われています。5、6個の水槽が並んでいます。

以前、「虫も飼おうとしない・・・。」と愚痴を言ったことがあったのですが、どんどん積極的になっていく子供達をとてうれしく思います。

朝教室に行くと、全員がある水槽のまわりを取り囲んでいました。「先生！カニが仲間食べてしまいました。」と大きな声で報告がありました。水槽に7、8匹もいたので共食いをしたようです。「カニの餌」を与えてはいたのですが、まだ慣れないようです。「やっぱり多すぎるんじゃないか。」「雄雌の2匹だけにしようやあ。」「それがいい。他のは逃がそうよ。」と相談がまとまりました。

楽たまっ子は大変よく虫の世話をしています。金曜日には、全員がどれかの水槽の係になるように決めたようです。「私は〇〇水槽の係なんです。」とうれしそうに話してくれました。

これだけ虫がいると、どうしても死んでしまう虫もいます。しかし、世話不足で死んだのは今のところいません。水換えや餌の準備などとてもよくやっています。不幸にも死んでしまったメダカとカニとエビは、みんなで丁寧に葬ってあげたようです。虫の係も死んだ虫の世話も、私は一言も言っていません。子供達は先へ先へと行動しています。すばらしいですね。

餌を与えるとオタマジャクシは一斉の水の表面に上がってきます。メダカは時々卵を生ます。先々週、腐ったヨモギが入った袋から漏れた汁が床にしみてアリがたかって大変な騒ぎがありました。このアリは、おそらく後ろの水槽から出勤してきたものでしょう。

教室では、虫たちが毎日のように何かを起こします。それを私に報告してくれる子供達目は、ドンダリのようにまん丸で、きらきらと輝いています。生き物ってすばらしいですね。生き物を飼う子供達ってすばらしいですね。

みんな、「教室の後ろには、水槽がもう4つは置けるスペースがあるよ！」